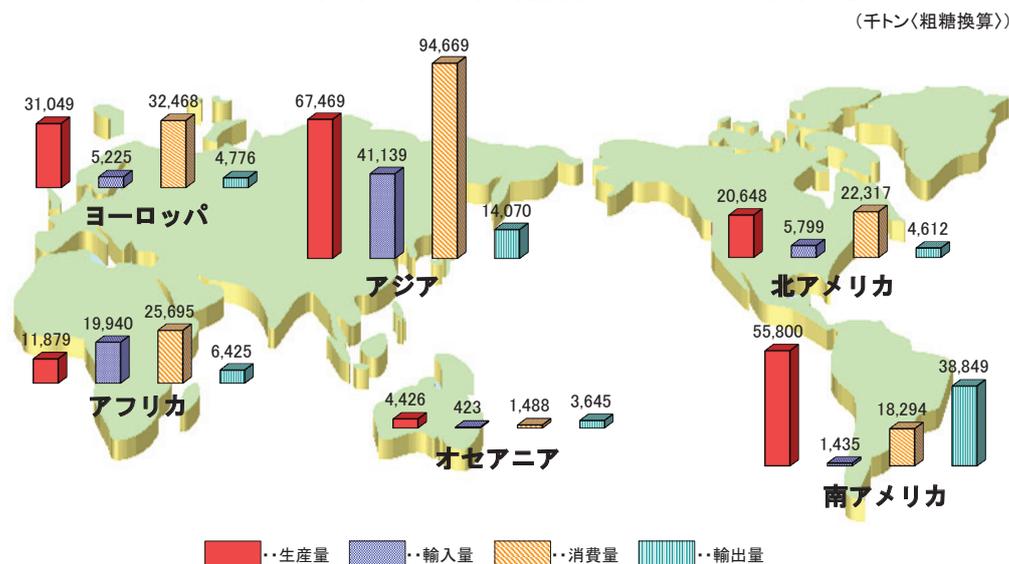


砂糖の国際需給

調査情報部 峯岸 啓之

1 世界の砂糖需給（2023年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2023/24年度予測値）



資料：英国の民間調査会社GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, December 2023」

注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。

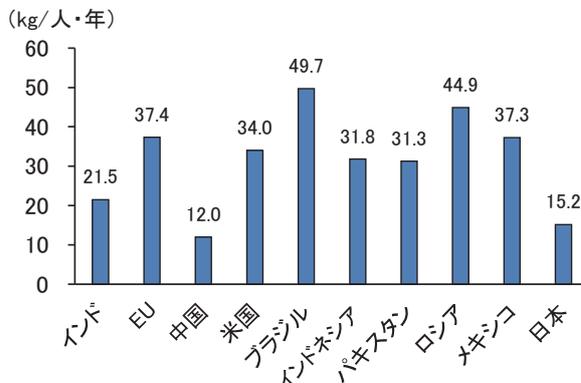
注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

GlobalData UK Ltd.（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2023年12月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2023/24砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億9127万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、前年度比0.1%減）と横ばいでの推移が見込まれる（表）。生産量第1位のブラジルで大幅な増産となるほか、EUや中国などで前年度の減産から回復が見込まれるが、同第2位のインドを筆頭にタイやパキスタンなどでは減産が見込まれる。

また、世界の砂糖消費量は、1億9493万トン（同2.7%増）とわずかに増加が見込まれる。消費量第4位の米国ではわずかに減少が見込まれるものの、同第1位のインドを筆頭にブラジルやインドネシア、パキスタンなどで増加が見込まれる。

この結果、期末在庫率は前年度比2.1ポイント減の37.7%と、昨年度に続き40%割れが見込まれる。地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。また、主要消費国・地域の一人当たりの砂糖消費量は図2の通りである。

図2 一人当たり砂糖消費量（2023/24年度）



資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, December 2023」

注1：年度は、各国の砂糖年度。

注2：EUには、英国を含む。

注3：主要消費国・地域上位9カ国・地域および日本を表示。

表 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1993/94	43,011	111,671	29,296	111,545	30,792	41,641	37.3
1998/99	55,071	134,755	36,987	124,048	39,954	62,812	50.6
2003/04	67,776	143,453	44,661	145,044	47,150	63,697	43.9
2008/09	67,085	150,476	48,241	160,676	49,830	55,297	34.4
2013/14	63,710	184,058	58,323	175,873	61,044	69,173	39.3
2018/19	80,661	186,618	61,420	182,759	61,495	84,445	46.2
2019/20	84,445	181,594	69,256	182,067	71,643	81,585	44.8
2020/21	81,585	181,623	66,782	184,148	68,189	77,652	42.2
2021/22	77,652	186,251	69,322	186,138	71,729	75,359	40.5
2022/23	75,359	191,441	69,683	189,799	71,049	75,634	39.8
2023/24 (2023年12月予測)	75,634	191,271	73,961	194,931	72,376	73,559	37.7

資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, December 2023」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

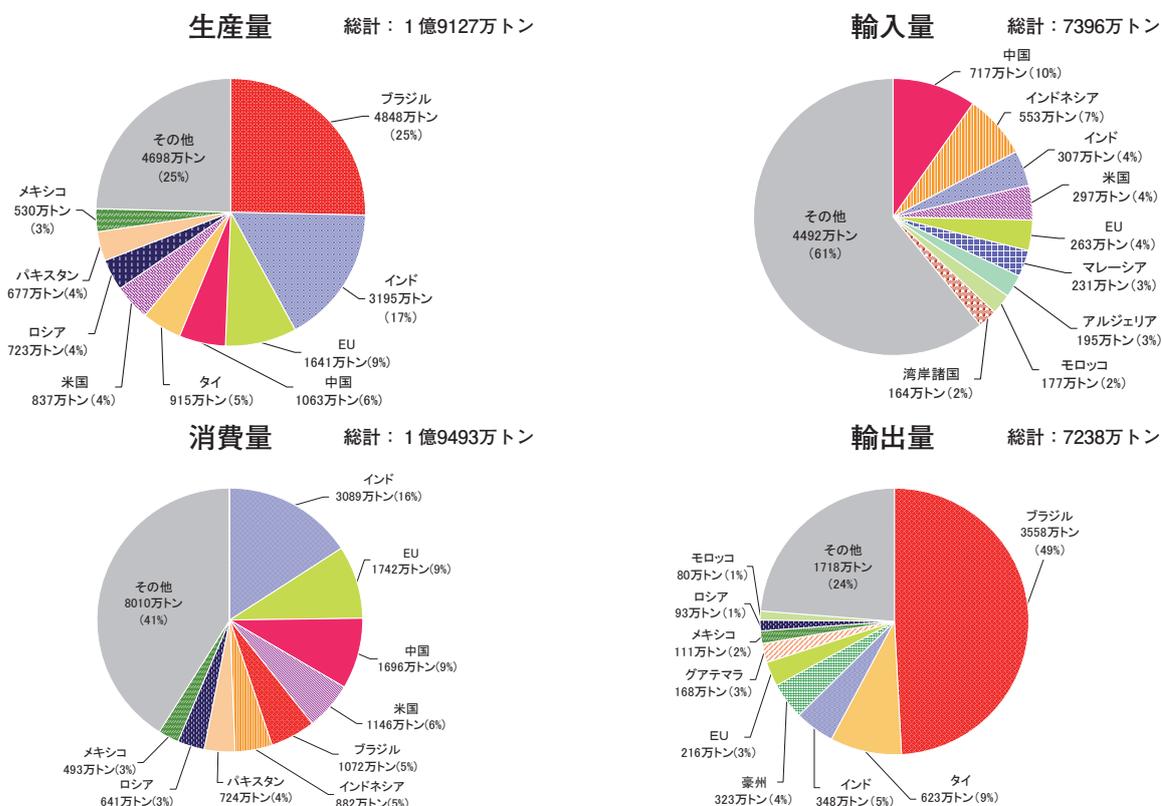
注2：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2 主要国の砂糖需給（2023年12月時点予測）

図 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2023/24年度）



資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, December 2023」

注1：年度は、各国の砂糖年度。

注2：各数量においては、その主要国とその他を表示。

注3：「その他」は、総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

【生産量】

ブラジルは、サトウキビの主産地である中南部が天候に恵まれ、サトウキビの増産が期待されることから、4848万トン（前年度比22.1%増）と大幅に増加すると見込まれる（図）。

インドは、モンスーンの到来の遅れや季節外れの大雨などによるサトウキビの減産を受け、3195万トン（同8.9%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

EUは、雨天が続き、近年、主産地の多くで懸念されている萎黄病^{いおう}（注）の発生が減少したことから、1641万トン（同4.9%増）とやや増加すると見込まれる。

【輸入量】

中国では、世界的な砂糖価格の上昇などを背景に砂糖の輸入が一時停止され、一部の備蓄糖が市場へ放出されるなどの動きがみられたが、6月以降は輸入を再開し、717万トン（同21.0%増）と大幅に増加すると見込まれる。

インドネシアは、砂糖価格の高騰などにより、553万トン（同15.8%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

【消費量】

インドは、国内需要の高まりから、3089万トン（同1.4%増）とわずかに増加し、世界の砂糖消費量の16%を占めると見込まれる。

EUは、1742万トン（同0.9%増）とわずかに増加が見込まれ、長らく砂糖需要を拡大させてきた中国は、1696万トン（同0.6%増）とわずかに増加するものの、EUの消費量をわずかに下回ると見込まれる。

【輸出量】

ブラジルは、インドやタイなど主要輸出国が減産見込みにより輸出量を大きく減らす中で、3558万トン（同22.7%増）と大幅に増加し、世界の砂糖輸出の約5割を占めると見込まれる。

タイは、収穫面積の減少や年初の乾燥によるサトウキビの減産などから、623万トン（同24.3%減）と大幅に減少すると見込まれる。

インドは、減産に伴う国内供給を確保するため、政府が輸出を制限すると発表したことなどから、348万トン（同59.8%減）と大幅に減少すると見込まれる。

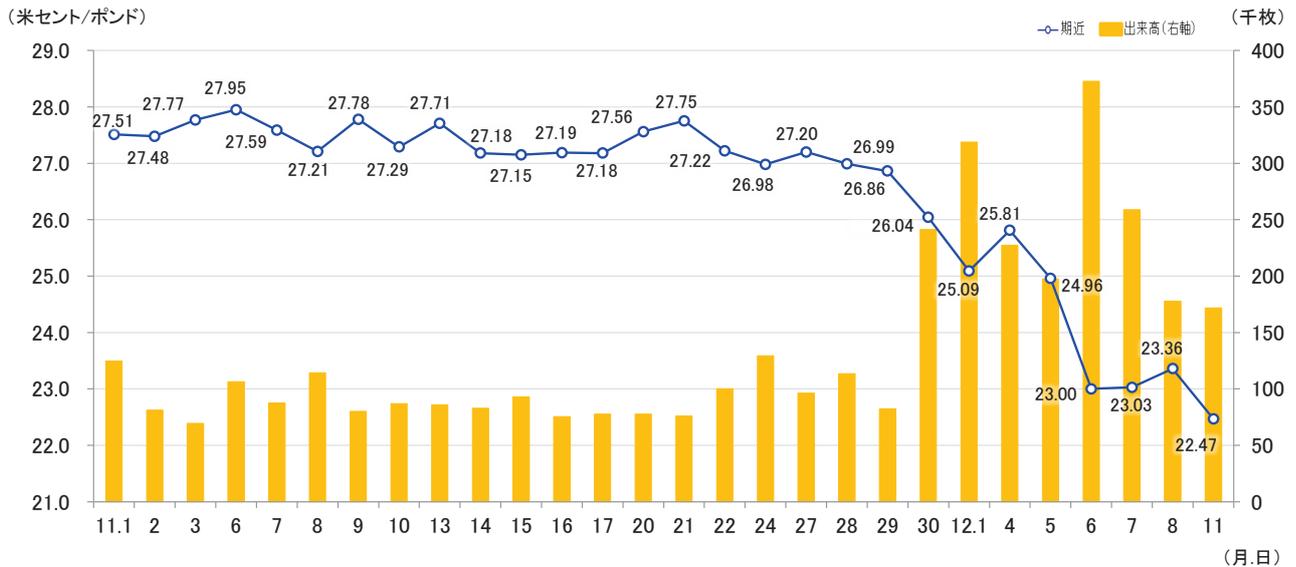
（注）アブラムシによって媒介される植物ウイルス病。

3 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（11/1～12/11）

～ブラジルの増産見込みから供給不足の懸念が和らぎ、5か月半ぶりに22セント台に急落～

図 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：期近3月限の値。

2023年11月のニューヨーク粗糖先物相場（3月^{がつ}限）の推移を見ると、1日以降は、タイの砂糖輸出規制の懸念から緩やかに上昇し、6日は1ポンド当たり27.95セント（注1）と12年ぶりの高値を更新した（図）。7日以降は、原油価格の低迷（注2）がロングポジション（注3）の清算のきっかけとなり、8日は同27.21セントと下落した。9日は、ブラジルでの港湾混雑により、同27.78セントに上昇した。10日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が砂糖増産を報告したことから、同27.29セントと下落したが、13日は、前週の高値に迫る、同27.71セントまで上昇した。14日以降は、国際砂糖機関（ISO）が23/24年度の世界の砂糖生産量を前回予測から上方修正したことで供給不足懸念が和らぐ一方、3か月半ぶりのリアル高（注4）が押し上げ材料となり、価格は横ばいで推移した。20日は、欧州の長雨による圃場の冠水で、てん菜の収穫が遅延し

ていることから、同27.56セントと上昇し、21日は、同27.75セントとさらに上昇した。22日以降は、リアル安や原油安により下落し、27日は、ドル安から一時上昇するも、UNICAが砂糖の増産見込みを発表したことから、28日は、同26.99セントと値を下げた。29日以降は、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）が23/24年度の砂糖生産量を上方修正したことから砂糖供給の不足懸念が緩和され、30日は、同26.04セントと下落した。

12月に入ってもブラジルの増産見込みは砂糖相場に大きく影響を与え、1日は、同25.09セントと26セントを割り込み下落した。4日は、ショートポジションをカバーするための買い戻し（注5）から一時上昇し、同25.81セントまで回復したものの、5日以降は、供給不足の懸念が緩んだことから売りが先行し、6日は、同23.00セントと急落した。7日以降は、ドル安やインドの減産見通しなどからわ

ずかに上昇したものの、ブラジルの増産が相場に与えるインパクトは大きく、11日は、同22.47セントと5カ月半ぶりの安値をつけた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要は減少し、その原料作物（サトウキビ、てん菜など）のバイオエタノール生産への仕向けが減る。その結果、それら原料作物から生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えると想定され、当該

食品の価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 将来の値上がりを期待して買いの持ち高を取っている状態。

(注4) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

(注5) 将来の値下がり期待して売りの持ち高を取っていた金融資産（ショートポジション）を、決済のために買い戻すこと。

4 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2023年12月時点予測）

ブラジル

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：830万ha（前年度比2.2%減）

生産量：7億50万トン（同15.5%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：4848万トン（同22.1%増）

輸出量：3558万トン（同22.7%増）

2023/24年度の砂糖輸出量は、増産と国際需要の高まりから大幅に増加する見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、一部の農家でより収益性の高い大豆やトウモロコシなどへの切り替えが進んだことから、830万ヘクタール（前年度比2.2%減）とわずかに減少すると見込まれる（表）。サトウキビ生産量は、主産地の中南部地域で好天に恵まれ収穫に良好な条件が続いたことなどから、7億50万トン（同

15.5%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの増産や収穫期の好天を受け、収穫作業や工場での操業が加速していることなどを背景に、4848万トン（同22.1%増）と大幅に増加し、過去最高水準に達すると見込まれる。輸出量は、引き続きエルニーニョ現象による世界的な天候不順への懸念や国際市場での需要の高まりが期待されることから、増産を背景に3558万トン（同22.7%増）と大幅に増加すると見込まれる。

表 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

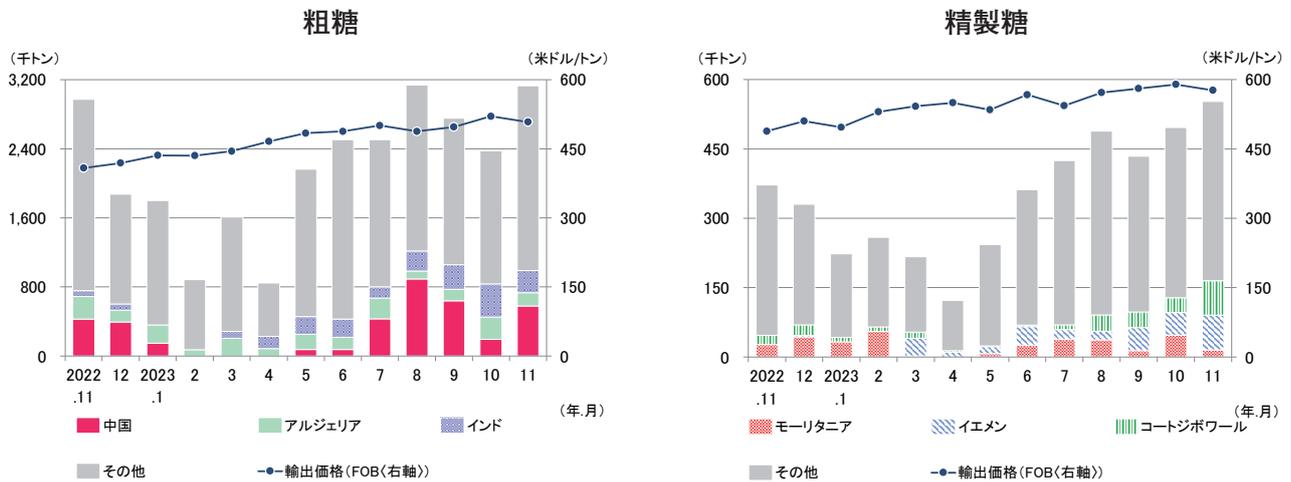
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (11月予測)	2023/24 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,651	8,679	8,485	8,276	8,300	▲ 2.2%	
サトウキビ生産量	657,432	576,707	606,676	682,000	700,496	15.5%	
砂糖	生産量	44,642	37,620	39,720	47,410	48,480	22.1%
	輸入量	6	4	2	3	3	48.8%
	消費量	10,916	10,718	10,557	10,715	10,715	1.5%
	輸出量	34,042	27,093	28,985	35,021	35,577	22.7%
	期末在庫量	3,767	3,581	3,761	5,433	5,952	58.3%
	期末在庫率	8.4	9.5	9.5	11.9	12.9	3.3ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

インド

2023/24年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：546万ha(前年度比0.4%減)

生産量：4億4322万トン(同3.7%減)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：3195万トン(同8.9%減)

輸出量：348万トン(同59.8%減)

2023/24年度の砂糖輸出量は、減産と国内供給の確保により大幅に減少する見込み

2023/24年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、546万ヘクタール(前年度比0.4%減)と前年度からほぼ横ばいで推移すると見込まれる(表)。サトウキビ生産量は、過去5年間でモンスー

ン期の降雨量が最も少なかったことやカルナータカ州とマハラシュトラ州の一部など南西部では、乾燥した天候がサトウキビの生育にマイナスの影響を与えたことから、4億4322万トン(同3.7%減)とやや減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、インド北部ではサトウキビが順調

に生育しているものの、他の主産地での季節外れの大雨によるサトウキビの減産などにより、3195万トン（同8.9%減）とかなりの程度減少すると見込

まれる。輸出量は、砂糖の減産見込みや同国政府による輸出制限により、348万トン（同59.8%減）と大幅な減少が見込まれる。

表 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (11月予測)	2023/24 (12月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	4,804	5,197	5,483	5,463	5,463	▲ 0.4%
サトウキビ生産量	414,392	480,180	460,037	443,221	443,221	▲ 3.7%
砂糖	生産量	33,642	38,559	35,065	31,949	▲ 8.9%
	輸入量	1,037	428	1,686	3,070	82.1%
	消費量	28,679	29,516	30,456	30,888	1.4%
	輸出量	8,538	12,468	8,646	3,478	▲ 59.8%
	期末在庫量	7,971	4,973	2,622	3,332	24.9%
	期末在庫率	21.4	11.8	6.7	9.7	9.5

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2023」

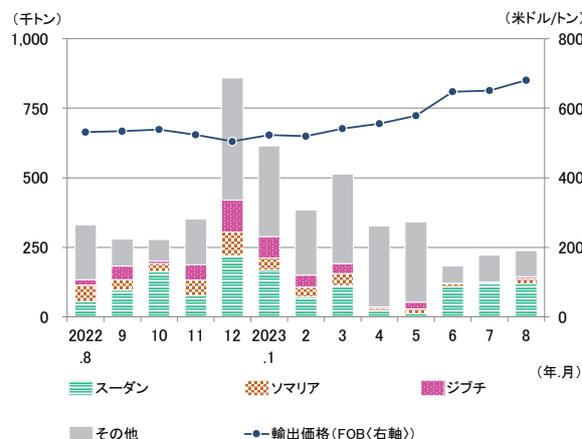
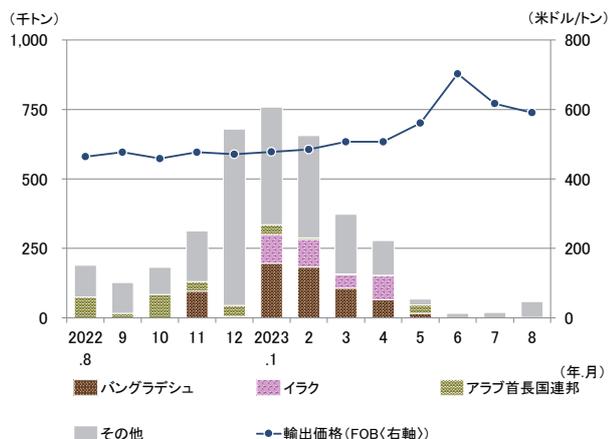
注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移

粗糖

精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

中国

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha（前年度比5.3%増）

生産量：7073万トン（同13.0%増）

【てん菜】

収穫面積：18万ha（同1.1%減）

生産量：919万トン（同5.4%増）

【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1063万トン（同9.6%増）

輸入量：717万トン（同21.0%増）

2023/24年度の砂糖生産量はかなりの程度、 輸入量は大幅に増加する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、116万ヘクタール（前年度比5.3%増）とやや増加すると見込まれる（表）。サトウキビ生産量は、年初に広西チワン族自治区で続いた乾燥が生育の懸念材料となっていたものの、8月から9月にかけて降雨に恵まれたことから、7073万トン（同13.0%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。一方で、てん菜の収穫面積は、^{しんきょう}新疆ウイグル自治区で寒さによる部分的な不作が生じたことなどから、

18万ヘクタール（同1.1%減）とわずかに減少すると見込まれる。てん菜生産量は、収穫面積は減少するものの、単収が増加し、919万トン（同5.4%増）とやや増加し、回復が見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビ生産の回復を背景に、1063万トン（同9.6%増）とかなりの程度増加し、21/22年度の水準にまで回復すると見込まれる。輸入量は、需給ギャップを埋めるための輸入増加が予想されることから、717万トン（同21.0%増）と大幅な増加が見込まれる。

表 中国の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

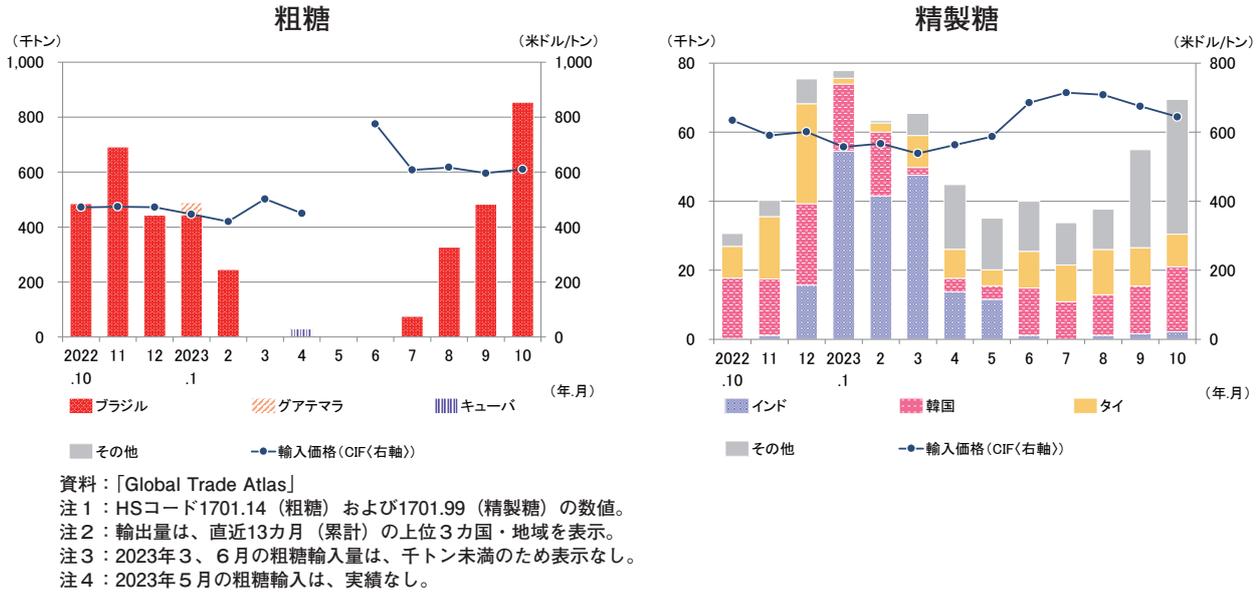
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (11月予測)	2023/24 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,157	1,119	1,102	1,160	1,160	5.3%	
サトウキビ生産量	72,441	72,136	62,592	70,075	70,731	13.0%	
てん菜収穫面積	231	144	182	180	180	▲ 1.1%	
てん菜生産量	12,330	7,070	8,719	8,953	9,185	5.4%	
砂糖	生産量	11,530	10,334	9,698	10,534	10,630	9.6%
	輸入量	8,198	6,961	5,928	6,611	7,173	21.0%
	消費量	16,740	16,524	16,848	16,956	16,956	0.6%
	輸出量	134	172	201	186	186	▲ 7.2%
	期末在庫量	15,919	16,517	15,095	15,096	15,756	4.4%
	期末在庫率	94.3	98.9	88.5	88.1	91.9	3.4ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. [Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2023]

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



中国およびEUの需給動向は2024年1月号より隔月の更新となりました。EUの需給動向は来月号の掲載となります。

5 日本の主要輸入先の動向（2023年12月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2022年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が90.7%（前年比4.1ポイント増）、タイが9.3%（同4.1ポイント減）と、両国がほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

<p>2023/24年度（4月～翌3月）の見通し</p> <p>【サトウキビ】 収穫面積：35万ha（前年度比7.6%増） 生産量：3036万トン（同6.8%減）</p>	<p>【砂糖（甘しや糖）】 生産量：423万トン（同1.5%減） 輸出量：323万トン（同9.8%増）</p>
--	---

2023/24年度の砂糖輸出量は、需要の高まりからかなりの程度増加する見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比7.6%増）とかなりの程度増加すると見込まれる（表）。サトウキビ生産量は、主産地であるクイーンズランド州北部での季節外れの降雨の影響を受けて収穫が遅

れ、3036万トン（同6.8%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビが減産見込みであるものの、エルニーニョ現象の影響とされる乾燥した天候により、CCS^(注)の数値は高いことから、423万トン（同1.5%減）とわずかな減少にとどまると見込まれる。しかし、今後、エルニーニョ現象が強ま

り、サトウキビ生産地で乾燥が進むことは、24/25年度のサトウキビ生産にはマイナスに働く可能性がある。輸出量は、主要輸出先である韓国、インドネシアおよび日本などの砂糖消費需要が堅調であることに加え、50年ぶりに再開された英国への輸出や、世界的な砂糖の供給懸念による豪州産砂糖の需要の

高まりなどから、323万トン（同9.8%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

（注）可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (11月予測)	2023/24 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	354	343	328	339	353	7.6%	
サトウキビ生産量	31,074	30,123	32,593	30,727	30,362	▲ 6.8%	
砂糖	生産量	4,385	4,108	4,298	4,233	▲ 1.5%	
	輸入量	10	9	16	14	▲ 12.5%	
	消費量	1,010	1,010	1,013	1,010	0.4%	
	輸出量	3,377	3,453	2,942	3,373	9.8%	
	期末在庫量	790	444	803	807	803	0.0%
	期末在庫率	18.0	9.9	20.3	18.4	18.9	1.4ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：152万ha（前年度比6.2%減）

生産量：7500万トン（同20.1%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：915万トン（同21.7%減）

輸出量：623万トン（同24.3%減）

2023/24年度の砂糖生産量と輸出量は、大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、エルニーニョ現象などによる乾燥天候を考慮して、より乾燥に強いキャッサバに転換する農家が増加しており、152万ヘクタール（前年度比6.2%減）とかなりの程度減少すると見込まれる（表）。サトウキビ生産量は、収穫面積の減少に加え、

エルニーニョ現象による天候不順がサトウキビの生育に大きく影響し、7500万トン（同20.1%減）と大幅な減産が見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの減産を受け、915万トン（同21.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。輸出量も、砂糖の減産を背景に、623万トン（同24.3%減）と大幅に減少すると見込まれる。

表 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

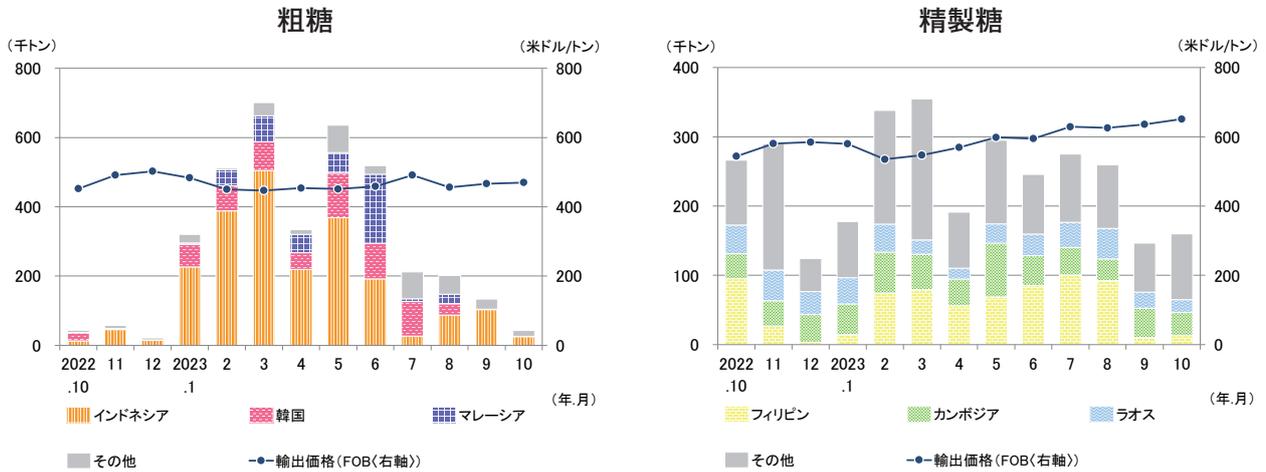
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (11月予測)	2023/24 (12月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,485	1,525	1,617	1,518	1,518	▲ 6.2%
サトウキビ生産量	66,659	91,145	93,888	75,000	75,000	▲ 20.1%
砂糖	生産量	8,046	10,638	11,693	9,154	▲ 21.7%
	輸入量	111	149	283	215	0.0%
	消費量	3,592	3,424	3,348	3,309	▲ 1.2%
	輸出量	3,981	8,085	8,229	6,233	▲ 24.3%
	期末在庫量	5,116	4,395	4,794	4,552	▲ 2.2%
	期末在庫率	67.6	38.2	41.4	47.7	7.7ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。